

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ハニーバジャー・インテンシティ</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.540</b>	△RG <b>0.048</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：ハニーバジャー・インテンシティ**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番

**比較対照ボール：ハニーバジャー・エクストリーム**

フレアーの幅  インチ

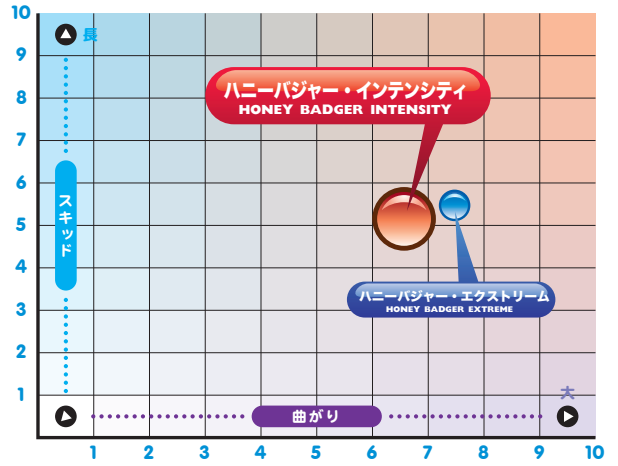
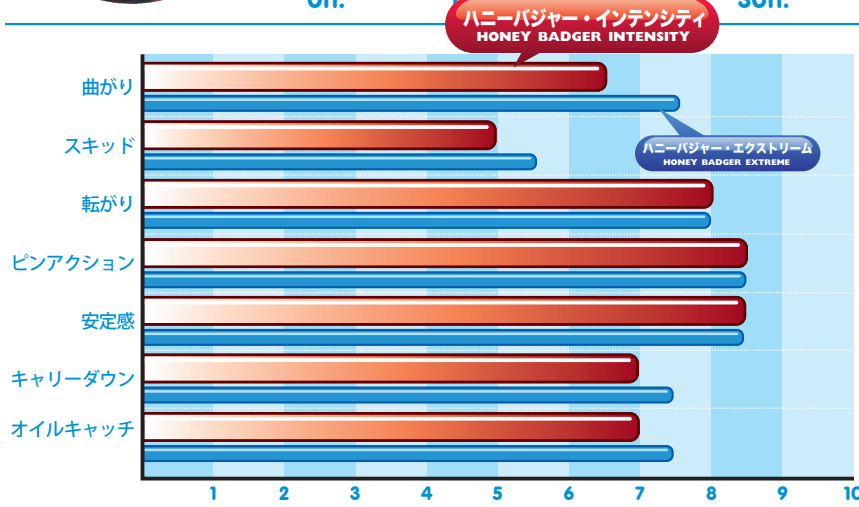
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

### ボールの評価

前回発売されたHONEY BADGER EXTREMEは工場移転から初めてのBadgerシリーズで、S74カバーストックはPearl素材でありながら、キャッチの良さとバックエンドのメリハリ双方が高いレベルで仕上がっている逸品でした。今回のHONEY BADGER INTENSITYはベースはS70 Solid Reactiveを採用しています。HONEY BADGERシリーズはGrapnel 2.0 Asymmetric Coreをデフォルトとしてバックエンドの動きを重視してきましたが、INTENSITYはHONEY シリーズの中でも新たな可能性を見出す性能で仕上げられてきました。まずはじめに印象深いのはS70のカバーストック領域のSolid素材ということ。今までのHONEY BADGERシリーズは基本HybridかPearl素材でした。それはコンセプトがメリハリ感のあるバックエンドにあったからです。このINTENSITYの開発コンセプトはGrapnel コアの定評のあるネジレ感をSolidカバーと掛け合わせることで中盤から均等にピンヒットまで伝達させこと。カバーストックはあえて強過ぎず、900Global社の中でも中間から下の領域を使っていることです。投球してみるとその雰囲気は明らかにリアクションに出ており、オイルに強いという印象よりは対応コンディションはミディアムが相応で、手前からしっかりと転がり、安定した軌道イメージから感じるものは安定感を重視したスペックであることは間違いなく、今までのHONEY BADGERシリーズの中では一種「異端児」のようにも感じました。しかしこれはどのメーカーでも言えることですが、ミディアムヘビーからミディアムにかけてバックエンドにメリハリ感をだすスペックを求められ、積極的に手掛けているのはアジア圏特に日本が主である傾向は強く、米国では過激に動くボールは暴れると敬遠されます傾向にあります。このHONEY BADGER INTENSITYも派手なリアクションというよりは、コントロール重視のボールと言えるでしょう。

### 特記事項

**HONEY BADGERシリーズの中でもミディアムコンディションを中心に扱いやすいコントロール性能を軸に考えられた製品。手前からしっかりと転がり、狙ったラインを外さない的確なコントロール性能を発揮します。**